

## 経営情報学会 2021 年全国研究発表大会

宗平順己 (むねひら としみ)  
武庫川女子大学経営学部

### 1. はじめに

2020 年末に出された DX レポート 2 では、DX 推進にあたって経営者の責任が強く示されており、一方デジタル系の取り組みと既存事業のデジタルによる効率化の両立での取り組みが必要なこと、またデジタルプラットフォームの構築にあたってはマイクロサービスのマネジメントが必要なことなど、いろいろなレイヤでの新たなマネジメントがこれから必要になってきます。

そこで、今回の研究発表大会では、DX 推進に必要なマネジメントの仕組みをどのようにすれば構築できるのかについて考えるということで、「DX とマネジメントーデジタルトランスフォーメーションを成功に導くにはー」をテーマとさせて頂きました。

2021 年全国研究発表大会は、11 月 13・14 日の両日、武庫川女子大学において 2020 年度に新たにオープンした公江記念館を使ってハイブリッド方式で開催されました。

全日程を通じて、37 件の一般口頭発表、7 つの部会セッションで 13 件の発表、23 件の学生セッション、35 件のポスターセッションが行われ、会員・非会員あわせて、202 名（うち現地参加 70 名）が参加する盛会となりました。以下、時系列で報告させて頂きます。また、今回初めてのハイブリッドでしたので、得られた知見を共有すべく、どのような工夫をしたのかについてもまとめておきます。

### 2. 大会一日目

大会一日目は、ポスターセッション、学生セッション、基調講演、部会セッション、一般発表セッション、表彰式を行いました。



ポスターセッションの様子

#### (1) ポスターセッション

ポスターセッションの発表者にはそれぞれにブレイクアウトルームが割り当てられ、発表者はリモート・現地ともに Zoom で発表資料を共有し、現地参加者とリモート参加者の両方から質問を受けるという方式で発表が進められました。現地は 6 か所の発表場所が設けられ、熱心な質疑がなされました。

#### (2) 学生・部会・一般発表セッション

各発表会場には、それぞれブレイクアウトルームが割り当てられました。発表は現地、リモートが混載する形で行われ、現地参加者は会場移動、リモート参加者は自分でブレイクアウトルームを選ぶという方式で発表に参加してもらいました。

初めてのハイブリッド方式での開催でしたが、Zoom に慣れていない人が多く、大きな混乱もなくセッションを進めることができました。

#### (3) 基調講演

基調講演では、株式会社 NTT データ経営研究所 執行役員エグゼクティブ・コンサルタントの三谷慶一郎氏より「DX に求められるマネジメントとは」と題してご講演頂きました。

JUAS や IPA の資料を基に DX の現状を整理頂い



基調講演の様子

た後、新しいデジタルビジネス創造へのチャレンジやレガシーモダナイゼーションの難しさなどコロナ禍の中で新たに見えてきた課題を提示され、その課題に対応したDX認定制度などのDX推進に関する政策を紹介されました。そして、そういった中でこれからDXに求められるマネジメントについて、ビジョン、組織、プロセス、文化・風土の切り口からお話いただきました。

#### (4) 表彰式

一日目最後のイベントは表彰式でした。以下の方々が、論文賞、学生優秀発表賞で表彰されました。

#### ■論文賞

- ・大川順也（早稲田大学大学院創造理工学研究科経営システム工学専攻）  
雲居玄道（早稲田大学理工学術院創造理工学部経営システム工学科）  
後藤正幸（早稲田大学理工学術院創造理工学部経営システム工学科）  
「潜在的ディリクレ配分法を用いた問合せ文書と回答文書の関係分析モデルとその応用に関する一考察」

#### ■学生優秀発表賞（発表者のみ記載）

- ・新井啓矢（横浜国立大学大学院国際社会科学府）  
「小規模小売店におけるQRコード決済の導入と継続的利用に関する意思決定過程：質的研究によるアプローチ」
- ・小田樹（早稲田大学）  
「リバース・イノベーションのモデル化と社会シ



表彰式の様子

ミュレーション分析—GE Healthcareを典型事例として—」

- ・久留島弘章（東京理科大学）  
「実践共同体における知識移転のメカニズム—江戸の蘭学者の師弟ネットワーク分析による実証研究—」
- ・小林秀二（東京大学工学系研究科）  
「IT技術者白書：長期統計データによるコーホート分析」
- ・古川翔大（東京理科大学）  
「コア技術と市場的知識による新技術導入のメカニズム—自動車産業におけるマザー工場制に関する実証研究—」

### 3. 大会二日目

大会二日目は、特別講演、部会セッション、一般発表セッションを行いました。

#### (1) 特別講演

特別講演では、株式会社イルグルム代表取締役 岩田進氏より「デジタルマーケティングのこれまでとこれから」と題してリモートでご講演頂きました。

デジタルマーケティングのこれまで、デジタルマーケティングのいま、デジタルマーケティングのこれからの3部構成で、年表形式でインターネット広告の変遷を分かりやすく説明頂いた後、テレビを抜いて広告費の一位となったインターネット広告における現在の課題を整理頂き、最後にこれから大きく様変わりするデジタルマーケティングの方向性についてご説明頂きました。



一般発表セッションの様子

## (2) 部会セッション・一般発表セッション

二日目は初日1トラックだった一般発表が午前午後合計9トラックになり、部会セッションは初日に続き二日目も4トラックが設定されました。

リアル、オンラインが混在したことが良い方に影響したのか、例年は参加者数が大きく減少する2日目午後になっても、最後のセッションまで多くの参加者が発表に参加していたのが印象的でした。

## 4. ハイブリッド開催方式について

今回の大会は、初めてのハイブリッド方式でしたので、どのような工夫をしたのか、今後の参考のためにまとめておきたいと思います。

私がハイブリッド開催が可能だと判断したのは、自身の授業での経験と他学会での参加経験によります。

2020年度当初のオンラインでの学会開催はトラックごとにZoomのURLを分けるというものが多く、それだと多くのトラックを設定することはできないと思っていました。別会場に移るためにいちいちZoomから一度抜けてまた別のZoomにログインするというのは参加者の流動性を妨げることになるからです。

ところがZoomがバージョンアップされて、ブレイクアウトルームを会議参加者が自由に選べるという機能が追加されました。そしてこの機能を使った他学会に参加したことによって、これは使えるという手ごたえを持ちました。また、2020年の春学期の大学院の授業で対面とオンラインが混在するという事態が発生したのですが、集音能力の高いスピーカーフォンを使うことによって、PC1台でハイブ

リッド講義ができることが分かりました。さらにブレイクアウトルームにあらかじめ名前を付ける方法も分かり、問題なく実施できると判断しました。

苦労したのはポスターセッションです。リアルのポスターセッションの様に発表者がそれぞれブースをもって、参加者が自由に回って発表者と意見を交わす、この状態をハイブリッドで実現しようとデザインしました。教室のプロジェクターでA3のデータを映すと、リアルのポスターと同じ大きさになり、PCのマイクを会場側に向けることによって、オンラインの発表者もリアルの参加者と会話ができる、このことは事前に検証で確認できました。

ところが発表申込を締め切ってみると35件もの発表があり、会場数が全く不足し、結果的に15分ごとのリアル会場との窓を設けるといふことにしました。オンラインでは1時間半つないだままにしておいてもらったのですが、リアルの参加者との接触枠を限定させてしまったのは残念でした。

ポスター発表については、オンライン参加者は自身のPCでポスター原稿をZoomで見ると小さくなってしまいますので、参加者がダウンロードして自分のPCで再生できるようにすることも必要でした。メールでは手間がかかりすぎるので、もっと効率的な方法はないかと探っていたところ、Dropboxのファイルリクエストを使用して他のユーザからファイルを集めることができることが分かりました。ファイルの参照は従前から可能でしたので、今回はこの機能を利用しました。

運用上の工夫は、参加者向けへの情報提供にもあります。大会ホームページは頻繁に書き換えることが難しいので、今回はGoogleスプレッドシートを参加者と共有するという方式をとりました。

Googleスプレッドシートには、利用マニュアルのURL、ZoomのURLを記入するポータルサイトの使い方をしました。マニュアルはGoogleドキュメントで作成し、随時アップデートを続けました。前例がないので完成したマニュアルを作成することができないため、この方法を採用することで、参加者には早めにURLを連絡することができ、こちらは更新版のファイルをメールで送るというような面倒なことをすることなく、気づいたことをどんどんマニュアルに書き込むということが可能になり、運用側、利用側の負担を最小限にすることがで

きました。

ハイブリッド開催で最も恐れるべきことは Zoom を立ち上げた PC がダウンすることです。そこで、今回は研究室の PC で Zoom（初日は 2 アカウント）を立ち上げ、基調講演や表彰式の中継などには別のノート PC で別アカウントで入ることで、可用性を担保しました。

オンライン開催の場合、信頼性の高い PC を Zoom ホストとして立てておくということは必須だと思います。

## 5. おわりに

今大会は 2 年ぶりの対面が可能な開催となりました。現地参加者は、ワクチン 2 回接種した人ばかり

で、久しぶりの再会を皆さん喜んでおられました。またセッションでの発表をみると、現地参加者とオンライン参加者とは活発に意見交換されていることが多く、オンラインのみでできないディスカッションの場を作ることができたのではないかと思います。

しかし何よりも計 106 件もの発表を申し込んで頂いた発表者の皆様、200 名を超える参加者の皆様のおかげで、デジタル・トランスフォーメーションとマネジメントとの関係について、経営情報学会らしい活発な議論ができました。

田名部会長はもとより、副会長、学会理事、セッション座長、実行委員・プログラム委員、関西支部運営委員、現地スタッフの尽力で、盛況のうちに終えることができました。厚く御礼申し上げます。